


●ガバナー 田中 常浩 ● 会長 清川 浩幸 ● 幹事 慶徳 拓也 ● コミュニケーション委員長 中村 澄

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

 Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2020/

第 2238 回 例会 記 録

《ポールハリス追悼例会》

2023 年 1 月 26 日 (木)

点 鐘 12：30

レポ ー ト No. 1670



《会長要件》 清川会長



こんにちは、先週はご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。

ジェニファー・ジョーンズRI会長のメッセージがMy Rotary に投稿されました。「ロータリークラブを率いるということは、そのような対話を促し、新しいアプローチを積極的に試みることなのです。優れたリーダーシップとは与えることです。ほかの人々を支えること。ほかの人びとに勝利を味わせること。」と伝えています。詳しくはMy Rotary をご参照ください。

今月は職業奉仕月間です。先週は大澤会員より成年と未成年について卓話をして頂きありがとうございました。子供達の世界が大きく変わって行きます。私達も考え方を変えなければならぬと感じています。未成年と成人の間の世代があると自覚しなければならぬでしょう。

ガバナー月信では、田中ガバナーは職業奉仕とは「①全ての関係者を公平誠実に扱う②あらゆる有用な職業に社会的価値観を見出す③自己の職業上の手腕を社会に役立てる事」とメッセージを出しています。詳しくは地区のHPをご参照ください。

来週は第 29 回よろず相談です。当クラブの中でも大きな奉仕活動です。幸いにも予定通りに開催できそうです。久保田社会奉仕委員長が各クラブに出向いてお話して頂きました、私も八戸クラブさんの例会に連れて行ってもらいました。私にとって初めてのメイクアップでした、落ち着かない中、声枯れで挨拶もできませんでしたが、久保田委員長がピーアールしてくださいました。本当にありがとうございました。きっと例年になくたくさんの相談者が申込みにくると思います。また、明日はBeFMに中村コミュニケーション委員長、小原職業奉仕委員長と3人でよろず相談開催のお知らせに行ってきます。お二人の委員長にはご迷惑をお掛けしていますが、よろしく願いいたします。

1 月 28 日にリンクステーション青森で行われる危



《出席報告》 出貝委員長

正会員数 31 名。本日の出席は免除会員 6 名を含む 17 名。出席率は 63% です。

機管理委員会に吉田賢治会員が参加して頂けるとのこと、ありがとうございます。私は所用で出席出来ませんが、よろしくお願い致します。

ロータリーの友は皆さん見て頂いたと思いますが、1 つだけお話をさせていただきます。私の入会は 2011 年 7 月 7 日です。大震災の起きた年です。バックナンバーでたどる「友」70 年の記事で田中作治元RI会長と黒田先生の写真が在りました。災害復興事業の写真でした。もう直ぐ 3 月 11 日がきます。最近私の YouTube に八戸市の記録動画が頻繁に出てくるようになりました。八戸市広報チャンネルで数種類の動画があります。対馬海溝と日本海溝の地震で八戸に 26m 以上の津波が予想されています。災害対策を皆さん再度見直してみてください。

本日は、ポールハリス追悼例会です。長嶺会員に卓話をお願い致しました。本日の卓話をよろしくお願い致します。

最後にコロナだけでなくインフルエンザも増加傾向です皆さん健康には注意してください。皆さんに迷惑をお掛けしないように私が一番注意致します。

《幹事報告》 伊藤副幹事

・理事役員会報告

○3 月のプログラム、3 月 2 日 (木) 職業奉仕委員会担当例会、3 月 9 日 (木) 任意休会、3 月 16 日 (木) 会員卓話として希望者に会社のピーアールなどをしていただく予定です。3 月 23 日 (木) 祝日の週に付き休会、3 月 30 日 (木) 出席・親睦活動委員会担当例会です。

○会報用のデジタルカメラを購入する事を承認。

・三八五グループから新年互礼会出席のお礼状が届いています。



◦明日からよろず相談の募集受付が始まりますのでよろしくお願ひします。当日お手伝いくださる皆様もよろしくお願ひいたします。

◦1月のロータリーレートは1ドル132円です。

◦例会変更のお知らせ、八戸北 RC 2月28日(火)時間変更です。

《上期会計報告》伊藤会計

皆様のレターボックスに上期会計報告書が入っています。中間報告ですので報告だけです。詳細については後程目を通してください。

《ニコニコボックス》松橋副委員長

清川会長：本日はポールハリス追悼例会です。長嶺会員、卓話よろしくお願ひいたします。

松田会員：長嶺様、卓話よろしくお願ひいたします。



《ロータリー財団委員会》熊谷副委員長

ロータリー財団からご報告申し上げます。本日小原会員より年次寄付とポリオプラス頂戴いたしました。小原会員ありがとうございました。



《ポールハリス追悼例会》長嶺会員



先日、蕪嶋神社での新年互礼例会で年男のお祓いをしてもらいました。73才の年男は八方塞がりだというお話でした。八方塞の年は、運気が強いと大変良い年になりますが、運気が弱いと非常に悪い年になるといわれ、運命の波が激しく人生に変動の生じる不安定な年回りとされています。八方塞がりと言うのは四方八方が塞がるということで、運気がどこにも逃げない、人間悪くなると下を見るのですけれど、下を見ると地面も塞がっているのです、八方塞がりではなく九方塞がりという感じで打ちひしがれて天井を見ると燦燦と太陽が輝いています。八方塞がり、九方塞がりと言っても天井だけは開いています。ですから、我が運気、今年は天に向かって羽ばたく年だと、八方塞がりと言うのは数え年で10歳の時から始まり、9個ずつ足していくと八方塞がりの年周りで、自分の干支が来るのが37才と73才の年が年男で八方塞がりの年になり、それ以外の年は10+9+9+というように足していった年が皆さんの八方塞がりの年ということになります。是非、悲観しないで、天に向けて開けるという希望を持っていただきたいと思ひます。

本題に入ります、ロータリーの特別行事と言うのがありまして(ロータリー章典8.020、2020年1月理事会会合、決定85号)クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加するよう強調するため、国際ロータリー(RI)理事会が指定した特別月間・週間・日のことです。

2015-16年度より、ロータリーの6つの重点分野が月間に取り入れられました。特別に何かを言うのは難しい特別月間は、8月 会員増強・新クラ

ブ結成推進月間、9月 基本的教育と識字率の向上月間(重点分野)、10月 社会の経済発展月間(重点分野)、11月 ロータリー財団月間、12月 疾病予防と治療月間(重点分野)、1月 職業奉仕月間、2月 平和構築と紛争予防月間(重点分野)、3月 水と衛生月間(重点分野)、4月 母子の健康月間(重点分野)、5月 青少年奉仕月間、6月 ロータリー親睦活動月間となっていますが、各クラブ特別月間だからと言って特別に何かを言うのは難しい項目だと思ひます。当クラブのプログラムを見ると、8月に会員増強・新クラブ結成推進月間と言うのがあり、11月がロータリー財団月間、1月は職業奉仕月間、5月が青少年奉仕月間、6月が親睦活動月間と5つありますけれども、これが我がクラブが特別月間としてやっているプログラムになります。皆さんも毎月見ているロータリーの友の表紙の所に、今月は〇〇月間ですと小さく書いてありますので、今度気を付けて見ていただければと思ひます。

次に特別週間ですが、10月7日を含む1週間 ロータリー学友参加推進週間、11月5日を含む1週間、世界インターアクト週間、3月13日を含む1週間、世界ローターアクト週間と3つ定められています。ちなみに2007年のロータリー情報ハンドブックには11月5日を含む1週間を「世界インターアクト週間」、1月27日を含む1週間を「追悼記念週間」、2月23日～3月1日を「世界理解と平和週間」、3月13日を含む1週間を「世界ローターアクト週間」と定められていましたが「追悼記念週間」は現在は消滅しています。

この追悼習慣と言うのは1947年1月27日、明日27日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの命日で、1989年10～11月の理事会において、毎年この1月27日を含む1週間を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として「追悼記念週間」としましたが、2007年のロータリー情報ハンドブック以降は消えています。南クラブでは「ポール・ハリス追悼例会」として、毎年1月にやっていますが、今はRIの特別行事の中では削除されているので、「ポール・ハリス追悼例会」を続けるのも一つですし、RIで無くしたのだから無くすると言うのも一つの考え方ですので、これから皆さんで検討していけばいいのかなと思ひます。

特別の日と言うのは、2月23日 ロータリー創立記念日：世界理解と平和の日(2007年のロータリー情報ハンドブックには)1905年2月23日は、ロータリーの創始者・ポール・ハリスが友人3人と最初に会合を持った日です。この2月23日を祝う創立記念日は、「世界理解と平和の日」として尊重されます。この日、各クラブは、国際理解、友情、平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければなりません。ちなみに2月23日は天皇誕生日で令和では祝日になっているので、今年のプログラムを見ると2月23日がたまたま木曜日で、祝日につき休会となっています。ですから令和では2月23日が祝日ですので、中々ポール・ハリスの創立記念日を祝うということが出来にくくなってきているのではと思ひます。

このほかに日本独自の特別月間と言うのがありまして、9月 ロータリーの友月間、10月 米山月間と

いう二つの日本独自の特別月間があります。特別月間については以上です。

次にポール・ハリスについて皆さんにお伝えしたいと思います。ポール・ハリスが書いた「ロータリーへの私の道」という本がありますのでその中から抜粋してご紹介いたします。

「ロータリーへの私の道」ポール・ハリスから

ポール・ハリス（1868年4月19日～1947年1月27日 78歳）は アメリカウィスコンシン州ラシーンに生まれた。

父親 ジョージ 母 コーネリア

父方の祖父 ハワード・ハリスと妻パメラの間に5人の子供がいて3人は早世しポールの父ジョージはその残った2人のうちの1人で甘やかされて育った。祖父の援助でラシーンに雑貨店開店するも倒産してしまい一家離散となり、兄のセシルは母コーネリアの姉スーに引き取られ、ポールは父方の祖母に引き取られ、妹ニーナは小さかったから父母に育てられた。1回目の倒産から間もなく、再度祖父の援助でバーモント州ウォリングフォード近くの町で雑貨屋を開くが再度の倒産により再び一家離散の憂き目にあった。

ポールは後に両親について「王族のような浪費家であった」と言い、当時を回想し、「両親とも過去の不幸な出来事から全く何も学んでいないかのようであった。事業にも家庭にも、ラシーンの悲劇がそっくりそのまま再現されていた」

要するに浪費家でどうしようもなかったためポールはお爺さんに育てられたのです。

「ロータリーへの私の道」の中でポールが影響を受けた人として祖父のハワード・ハリスを挙げています。おじいさんはピューリタン（清教徒）で儉約家でポールを大学まで行かせ援助を惜しまない人で、教育を受けることの大切さを教えてくれた。祖母のパメラは言葉に頼らない心と心のつながりを大事にするような人で、後のロータリーの在り方に大きな影響を与えてくれた。父方の叔母の夫、医師のジョージ・フォックスは困った人から治療費を受取らない人で、「人の為に奉仕しようとする叔父の姿勢が多感で孤独な少年ポールに、他人に対する思いやりと献身が、人生をどれほど明るく美しくするかという感銘を植え付けたのでした」とあります。名前不明の園芸家は、人生のこと、自然のことを夢のように語り伝え、ポールが格調高い美文でロータリーの思想を世に広められたのは、この人の影響を受けたものと信じられています。

最初のロータリー・クラブ

シカゴでの生活は、平日は仕事が忙しかったが休日は孤独感を深めていった。仕事で知り合いはできても本当の友人ができなかった。人間は同類の人達と友人関係を持たなければならないことがはっきり分かった。この大都会に一旗揚げようと田舎から出てきた人たちが自分と同じように友人を作ろうと求めているのなら、そこから何か出てくるのではないかと、ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れた。夕食後、近所を散歩していると、友人は店の前を通るごとに、店の主人と名前を呼ん

で挨拶をするのです。これを見ていて私はニューヨークの私の村を思い出した。その時浮かんだ考えは、この大きなシカゴで、様々な職業から一人ずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見を広く許し合えるような人を選び出して、一つの親睦関係を作れないものだろうか。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずだと考え、1905年2月23日、3人の若い実業家を呼んで会談し、私たちすべてが、自分の村で知っているような、お互いの協力と気取らない友情を深めるための簡単な計画を彼らの前に提示した。この3回目の会合でこのクラブの名称をロータリーとした。会員それぞれの事務所や仕事場かわるがわるの会合を開いていたからであった。シカゴという大都会で集まったこの小さなグループの会員にとって、面倒な、意味の無い制約は振り捨てられ、もったいぶった取り繕いは入口で断られます。会員たちは皆少年に戻るわけです。私にとって、クラブの集會に出席することは、子供の時育ったあの谷間の家に帰るのと同じだったのです。ロータリーの初めの考え方は、どんどん広がっています。その理想はきちんと系統立てられて、その目標は綱領として提示されています。しかし、形式ばらない、心からの親睦が、ロータリーに欠くことのできない要素であることには変わりありません。「ロータリーが一人一人を發展させてゆく一つの方法は、各人の中に少年の心を保ってゆくことである。善良な人たちの心の底には必ず少年があって、その少年の人生に対する見方は素晴らしいもので、スポイルされておらず、偏見もなく、寛容であり、強い熱意と友好的な気持ちをちゃんと持っている。少年の心が無くなってしまった時は悲しい。人が自分の心をしなやかに保ち、友人の良いところを見習っていく気持ちを失わなければ、全く老いさらばえると言う事はないだろう。ロータリーは、人間の中の少年の心を生かし続け、自分を發展させていくよう、励まし、助けるのである」と言っています。

最初のロータリアンは田舎から出てきた人々が多く彼らは、優しい心と友好的な精神からビジネスの中でお互いを助け、成功するように援助し合うことに努力が傾けられました。これならビジネスに有利であると悟った人もあり、またそうでない人もいました。しかし、全員が親睦がお互いのためになるものであることを悟ったことは確かである。ロータリーは、社会的な地位、宗教的な信条、そして国籍を異にする実業家と、専門職業人を集めて、お互いにもっと知り合うようにし、彼らがさらに多くの共感と友好を持って助け合うようにするのです。ということでした。

1933年6月27日、ボストンで開かれたロータリー国際大会でポール・ハリスが演説し、これが初めてラジオ放送されました。その時の音声は My Rotary に載っています。気が付いた方もいらっしゃると思いますが My Rotary に載っていますので、機会があれば肉声を聞いてみて下さい。肉声で聞いても私はちょっとわかりませんので My Rotary に日本語訳したものがありますので、そちらもちょっと参考にしながら皆さんに紹介したいと思います。（演説要旨）

ロータリアンでない人々の関心を掻き立てるロー

タリーの特徴はおそらく二つある。一つはそれぞれの生業や職業の代表 1 名がロータリー会員になるという、いわゆる「職業分類」という考え方、二つ目は人種や政治的、宗教的立場がロータリー入会の妨げとなってはならないという規定で、ロータリーは、あらゆる職業や地位、あらゆる国、あらゆる形式の宗教の代表者に開かれています。ロータリーの才知と栄光は、まさにここにあるのです。

要するに色々な人種とか政治的な考え、宗教的な考えとか、社会的、職業的地位とかは抜きにして仲間作りができるよ、と言うのがロータリーの良さだということを言っています。

その仕組みはごくシンプルです。ロータリアンは多くの点で異なる者同士ですが、二つの点で完全に一致しています。一つは全ての国を尊敬すべきであり、他国との取引において高潔でありたいと願っているとロータリアンは信じていること。また、誰しも各々の良心に基づいて神を崇める権利があると信じています。換言すれば、「ロータリーとは寛容の精神を表しているのです」。第二に、ロータリアンは、全ての高潔な職業は、社会への奉仕に使われるのなら、その価値を認められる権利があると信じています。

この「寛容の精神」は、以前よく IM などの行事において、席順とか受付での対応に至らないところがあっても「ロータリーの寛容の精神に免じて許してください。」というように使っていました。「ロータリーの寛容」というのはお互いの考え方が違う者同士が集まっているのだから、考え方をお互いに許容して受け入れ、受け止めようということだと思います。もう一つ、ロータリーは自分の職業が社会への奉仕に使われているのであれば、その価値を認められる権利がある。要するに社会に役立つ仕事をしている自分、自分の仕事に対して誇りを持つのが一つで、ロータリーの寛容と自分の仕事に誇りを持つ、この二つがロータリアンにとって完全に一致しているところだよということです。自分の仕事に誇りを持つと言うのは、中々日本人としてはピンとこないですけども、外国の人は良く、自分の仕事に誇りを持つと言います。日本人は誇りを持つも持たないも、そういう概念がないのではと思います。

ロータリーは、このような同意点を重視し、論争を引き起こす問題は避けます。ですから、ロータリーが人々の共通項となって、誰もが安心して身を寄せられるのです。

要するに宗教的に違う、何的に違うというという所だけに目を向けると争いになるのだから、違う所

はお互いに受け入れて、論争を引き起こす問題は避けていく、これは職業分類に関してもそうだと思います。今迄は 1 業種 1 人でやってきたのですが、これは同じ業種の人が同じクラブに居ると、お互いの利害が反するわけで、そこから争いが起きるので 1 業種 1 人という考え方でしたが、今は 1 業種 3 人までとか緩くなっていますが、同じ業種の人でも「寛容の精神」で行けば、お互いに争うこともなくなるということです。

ロータリーの魅力は、会員がありのままの自然体でいること、自分らしくいることが奨励されていることです。わざとらしさが蔓延したこの世界で、冷たい、無意味な形式主義者ではない人達と出会えるのは新鮮です。誰にでも少年の心があり、その心を引き出す最善の方法は、友情に満ちた自然な会話なのです。

ということで、要するに気の置けない仲間との親睦とか会話を楽しんでいたのが今迄のロータリーだったと思います。

ポール・ハリスは演説を次の言葉で締めくくっています。

「究極的に、ロータリーは生き方であり、善良で、自然で、健康で、友情に満ちた生き方なのです。この世界には、まだロータリアンとなっていない潜在的なロータリアンが大勢います。その多くの方が、今、この放送を聞いています。同胞である人間に対する愛を心に抱いているなら、あなたは潜在的なロータリアンです。」

これは 100 年前の話ですが、今であれば生きとし生けるもの、すべてのものに対して愛を持っている人達の集まりがロータリーで、その愛があればあなたも潜在的にロータリアンである資格がありますよと締めくくっています。

この演説の中に「少年の心」と言うのが頻繁に出てきますが、皆さんも飛び級で大人になった人はいないと思うので、皆さん少年の時期を過ごして大人になっているわけですから「少年の心」を心の中で振り返ってみたいかがでしょうか。子供と言うのは誰とでもすぐ仲間になれます。見ていると初めて会った子でもすぐに仲良く遊べる、そこには全然大人のような壁はないです。子供にとっては貧富の差とか社会的地位何かは眼中になく、みんな平等で対等で、いじめられている子がいれば助けたではないですか、意見が違って取っ組み合いのけんかをして、子供はすぐに仲直りができます。そういった純真無垢な心を持って、これからもロータリーに励んでいきたいなと思っています。